現代詩

渓谷（けいこく）

おぐり　あつこ

二歳の息子が自分の足で坂道をのぼる
パパはカメラ片手に優しく見守る

渓谷に流れる
あたためられた光の中で
余生を楽しむ
トンボが集団となって
飛び続ける

心なしか
夏よりも手の届く位置まで
心ゆるす
トンボを指先に乗せてみる

ママ何してるの？
透明な羽根は虹色に輝く
一生のなかで一緒に過ごす時間は
限られている

北鎌倉　小坂の彩り

慶　野　千賀子

まばゆい朝の　太陽は
平和の夜明けの　暁光か
明日へと続く　道照らす

六国を見る　山あいに
育つ若葉は　爽やかに
静かな枝にも　花が咲く

古（いにしえ）の里　野を望む
果てなき未来　語りつつ
雲の静寂（しじま）に　富士を仰いで

湧き出る泉の名水は
歴史の舞台　見守りて
飛翔（とび）たつ友の　故郷（ふるさと）よ

母を想う

斉藤絹美

今日は母の日
今、母はいない
仏壇に母の好きだった
赤いカーネーションの花を供える
在りし日の母
いつもにっこりと笑っていた母
私を見守ってくれている母
心から有り難う。お母さん

無罪

坂田真希子

繭を引き裂き風を感じ
自分の血の暖かさを知れ

硝子を打ち破り外へ出て
雲が消える瞬間を目に焼き付けよ

激しい嵐に身を曝し
雷に打たれて覚醒せよ

軛と釘を焼き払い
身に絡む呪いを焼き尽くせ

熟れすぎた果実に酔い踊り
幾千の鳥の声を借りて歌え

自らの無実を宣言し
躊躇いなく自分を救え

祝婚歌　―出帆に向けて―

佐藤　裕一

そうか
君たちも航海に出るというのか
たった二人だけの乗組員(クルー)で
小さな帆船(ヨット)に乗り
大海原に漕ぎ出して行こうというのか

この大海の向こうに　何が待ち受けているか
誰一人として　知っている者はいない
ただみんな　水平線の彼方には
希望の故郷(くに)があることを信じて
懸命に　船を進めているのだ

君たちに　幸あれ
海を進む　君たちの一瞬一瞬が
まばゆいばかりに輝くよう
心から祈ろう
君たち
さあ　出帆のときだ

雨　あがり

チズコ・W・クジラ

雨あがりの早朝　窓の外　南天の葉に
ところせましと　大きいのやら
小さいのやら　水滴が――。
朝の陽で　ダイヤモンドが輝いているよう
写真に撮ろうと　外に出る
スマホのカメラで　カシャッ　カシャッ　ッ

筋力の衰えた　震える足に力を入れ
踏ん張って立ってる　私が映っている

目もかすみ、すぐ疲れ　老いを重ねた私が

喜寿を向え　亡母の年まであと二年の私が

太陽の光で元気をもらって　励まされるネ

さあ　今日も　一日　頑張ろう――!!

鼻歌

中田　ほたる

さびしいときはおもいだす
まるくてクールなそのすがた
深い雪の下の下
重い土の中ねむる
まっくら闇があるばかり
ひっそり閉とするばかり
雪中キャベツ　雪中キャベツ
甘く甘くなるために
雪中キャベツ　雪中キャベツ
きょうもひとり雪の下
雪中キャベツ　雪中キャベツ
甘く甘くなるために
雪中キャベツ　雪中キャベツ
きょうもひとりねむるのさ

あまーくあまーくなってきた
どこからともなく風がふく
かすかな光のさきの方遠くで空が笑ってる

鳥

中出　隆義

入院の男が眠る
労働を終えた男が眠る
刑を全うする男が眠る
戦争を始めた男が眠る

生まれた子が眠る
幼稚園で疲れた子が眠る
勉強に追われる子が眠る
いじめっ子　いじめられっ子が眠る

充分に生きた男が眠る
充分に遊んだ子が眠る
充分に生産した男が眠る
未開の原住民が眠る

夢の中で男が飛んでいる
入院の男が目醒(めざ)める
窓枠に来た鳥が鳴く
今度は鳥にならないかというように

涙

ひまわり

とめどもなく涙があふれてきたら
だまって受け入れ、涙をながそう

溢れんばかりの涙。
そこには、悔しさ、悲しさ、やるせなさ
さまざまなスパイスが
散りばめられている

心の痛み、苦しみを
その涙で洗い流そう

胸が、ちくちくと痛いけれど
以前より、少しだけ強くなった
自分と出会うことが、
きっと、できるだろう

だから、涙が出てきたら
こらえることなく、涙をながそう

恋写（れんしゃ）

水舞琴実

青い空が一枚
沈みかけた太陽を一枚
まばらに雲も一枚

遠く、山並みが一枚
まっすぐ道を一枚
ポピーの花畑も一枚

季節のフィルターが一枚
あたたかいエフェクトを一枚
今日の幸せも一枚

一番前には君が一笑（いっしょう）
最後に、君を好きだってレイヤー

夢

村上享子

湘南の海はサーフィンのメッカ
春夏秋冬　季節を問わず
良い波を求めてサーファーがやってくる
チャンピオンシップが開催され
プロやアマが技を競う

「東京２０２０オリンピック」
サーフィンは正式種目となった
鵠沼の海でサーフィンを始めたという
藤沢育ちの都筑有夢路（つづきあむろ）さん
サーフィン女子で銅メダルを手にした

２０２３年夏の鵠沼海岸
サーフボードを手にした女の子
ボード名は「マーメイド」
夢はオリンピック選手という
”夢“っていいね

オーガニックコットン

山田　にしこ

亜麻色の波間に
ただようのは
わたつみの
よりわけられない
泡　アブク

黒土に蒔かれた種を
育むのは人の手

太陽　水　土　風の恵みを頂きながら
まだ見ぬ反物の
一本の糸を　絡ませ　よじりあわせ　編む

地球上にこれほど美しい物が存在することの
回帰を
そっと　教えてくれる

このままでよいのでしょうか

陸井　絵夢

楽園が高度成長ごみの島
機密秘密プライバシーは筒抜けで
リモートで管理看視のテレワーク
一日が小さき画面で完結し
雷は天の悲鳴か哄笑か

核エネルギー平和利用は夢の夢
廃炉さへ出来ぬ施設は再稼働
トリチウム記憶も薄め大海原
処理水はシステム内でリサイクル
夕焼やくるったやうに暮るるるる

戦争を富と英知が進化させ
偏見と群集心理に踊らされ
生命や知や芸術に国境なし
敵を知り己を知れば避開戦
戦時下の平穏な月テント村